

このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

2011年度定期総会を開催

東北地方に甚大な被害を及ぼした「東北地方太平洋沖地震」が発生した翌12日、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京の2011年度定期総会が、東京YMCA東陽町センター視聴覚室にて開催されました。



第1部では、昨年度のご協賛・ご協力各社に感謝状を贈呈。第2部では、2010年度事業報告・決算報告に続き、2011年度活動方針および活動計画、収支予算書が承認され、新役員の選任が行われました。休憩をはさみ、新役員の中から選ばれた理事長(池田朝彦)、副理事長(岡松武司・諏訪なほみ)、専務理事(安田準)が紹介され、定期総会は無事閉会しました。

その後、第3部では各委員長への委嘱状授与に続き、イラストコンテストの大賞作品を発表。作者のキャラクター部門山田晋也さんとサンキューカード部門安村朝英さんには、素敵な記念品が贈られました。



ご協賛企業に感謝状を贈呈

イラストコンテスト大賞の山田さん



■ 新任理事

- 上田邦俊 (株)スリーボンド代表取締役社長
- 杉田秀男 国際スケート連盟判定役員評定委員 SON東京フィギュアスケート主任コーチ
- 戸波朝子 SON東京ボランティア委員長
- 野村一路 日本体育大学体育学部教授 知的障害者スポーツ連盟副理事長
- 峰岸和弘 SON東京事務局長

■ 新任監事

- 村上達彌 元NHK厚生文化事業団常務理事

■ 退任役員

- 後藤邦夫、田中伸枝、吉崎勇(監事)
- 永年にわたり、SON東京の役員としてご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

2011年度「委員会」の抱負

スポーツプログラム

最近のスポーツプログラムの傾向として低年齢アスリートの増加と、スキルレベルの向上したアスリートの増加があげられます。こうした状況に対応するには個人の能力・レベルに合わせたトレーニングが重要なポイントになります。このため、コーチ体制の更なる強化に努め、満足度の高いプログラムを実施したいと考えています。

(スポーツプログラム委員長(暫定) 安田 準)

文化プログラム

このほど、文化プログラムに「木彫り」「絵画」の両プログラムが正式認可され、一段と充実した内容を展開していくことになりました。文化プログラムはSO発祥の地アメリカにはない日本独自のものと聞いております。この日本でぐんぐん育てて行ってほしいものです。皆様のご協力に感謝しますとともに、今後ともよろしく願い申し上げます。

(文化プログラム委員長 吉澤万知子)

ボランティア

最近イベントだけでなく日常の活動に関心を持ってくださる方も増えてきています。私達が普段関わっているSOの活動をもっとよく理解していただけるように、今年はボランティア向け紹介DVDの改訂版を作成したいです。また、話題のメディアを活用したタイムリーな情報発信もぜひ検討したいですね。

(ボランティア委員長 戸波朝子)

企画

昨年度と比べ、今年度は大きな行事が少ないため、各委員会との連携を深めた活動を行うことを目標の1つにしています。各委員会活動に企画委員会に関わることで、委員会単独での活動に広がりを持たせる一助になればと考えておりますので、皆さんどうぞよろしくお願い致します。

(企画委員長 内和田裕一)

ファミリー

今年度のファミリー委員会はスタート早々、例年開催の企画について熱い議論が交わされ、年齢や地域、立場の異なる各委員の相互理解

の一歩になりました。これを好機として今年は「ファミリー委員って何?」の疑問に答えるべく、活動内容を協議し、他の委員会との連携をはかりつつ、会の認知度を上げていきたいと思えます。

(ファミリー委員長 山崎多美子)

ファンドレイジング

SO活動を継続するためには欠かせないお金を継続的に、また楽しく寄付していただけるような仕組みを考えております。たくさんの方にSOを認知していただき、個人寄付を集め、また広く企業のボランティアを受け入れながら企業とのWIN-WINの関係を築き、SON東京の財政の安定を目指したいと思えます。10月のW&Rでは画期的なイベントを仕組む計画です。お楽しみに。

(ファンドレイジング委員長 喜多洋子)

広報

今年度も、SON東京の広報活動のお役に少しでも立てればと思っています。ホームページの各プログラムのご紹介は、更新してから2年が過ぎました。最新の内容にしたいと思えますので、ご協力をよろしく願いたします。

(広報委員長 清原れい子)



お楽しみスキーイベントに参加して

前夜は吹雪でしたが、当日の朝食時には太陽が出て、すばらしいスキー日和になりました。今までスキープログラムには参加できなかったのですが、今回親子で楽しみに参加させていただきました。

滑走するゲレンデはきれいに整備されていて、初心者にも滑りやすいコースでした。アスリートたちは、ポールを順番にスムーズに滑

り、午後からの本格的な計測器を使ったタイム測定では、みんな上手に完走していました。孝次も私もポールを滑るのは初めてでしたが、大変楽しく滑ることができました。

池田理事長はじめ皆様にはいろいろお世話になり、ありがとうございました。また次回開催されたら、ぜひ参加したいと思います。(2月25日夜～27日)

小林孝次(アスリート)・義彦(ファミリー)



はじめてのフルマラソン

2月27日に開催された東京マラソンに、SON東京から数名のアスリートが参加しました。その中の一人溜田貴彦君(多摩陸上)は、初めてのフルマラソン挑戦。数年前からハーフマラソンに参加しており、過去東京マラソンも10kmの経験があるアスリートです。

初詣のような人混みのスタートから始まり、周囲の声援にも声を出して応えながら、自分のペースで走り続けました。さすがに35kmを越えたあたりからは、苦しくなってきた自分を励

ますかのように声援に応える声が大きくなり、踏ん張っている感じが伝わってきましたが、ランナーのほとんどが歩いている坂道もペースを崩す事なく、そのままゴール!!

結果は5時間半と、まだまだ伸びしろのある結果で、これからの記録も楽しみです。写真は当日出会うことが出来たSON東京のアスリートたちです。

報告:伴走をしたボランティアの内和田裕一さん



近藤剛さん(左)と中嶋智也さん(右)



溜田貴彦さん(左)と齋藤新樹さん(右)

WORKING ATHLETES

働くアスリートたち 第11回 森田 守さん(21歳)

総合人材サービスを展開する「パソナグループ」の企業理念は「社会の問題点を解決する」。その特例子会社「パソナハートフル」の中に、絵の得意な人たちがアーティスト社員として働く「アート村」があります。東京大手町の本部1階では、ちょうど森田守さんの作品展が開催中で、個性が光る素敵な絵がたくさん展示されていました。

▶ アーティスト社員の“希望の星”

森田さんは2007年に入社して、いつもは「アート村工房・武蔵野」で絵を描いています。パソナハートフルのマネージャーで、アート村担当の千田真美加さんにうかがいました。

「彼が描いた絵は荒削りでしたが、とても素敵でした。アーティスト社員として、会社のアーティ

スト育成講座でカリキュラムを組んで、本格的に指導を受けると、その才能を一気に伸ばしました。」アーティスト社員は現在15人。絵を描くことが仕事です。

「絵が売れると、自分が認められたと自信が付き、すごく才能が伸びますね。障害者だからではなく、すばらしい絵が、実は障害者が描いたものだったという考え方が基本です。素晴らしい作品や作品の商品たちを、これからも全国に発信をして、アート村を大きくしていきたいですね」

入社前は、電車など好きな題材だけを色鉛筆で描いていた森田さんでしたが、入社後、水彩・アクリル・パステルなどあらゆる画材を試した結果、ペンという画材に至りました。転期は世界遺産シリーズ。作風が変わり、大きく花開いたそうです。

「彼は、写真からイメージを膨らませて描いていますが、世界遺産という明確なモチーフを描くようになってから、独自の世界を築きました。彼の絵はすごく人気があるのですが、すばらしい作品のため、小品以外は販売をせずに、会社の財産として所有しています」

▶ 絵を描くのは大好き

森田さんは世界遺産シリーズに続き、植物シリーズを描いています。

「作品の持つ力もすごいですが、素直な性格ですから、他の社員からもとても愛されています。私だけが怖いみたいです」

そこで千田さんの印象を森田さんに聞いてみると、即、「優しい人!」という答えが返ってきました。取材の日、老舗の飲食企業からメニューやカタログに採用したいという注文を受けて、森田さんは「すき焼き」の絵を描いていました。集中力がすごい!「すき焼きは好き。うちで食べます」

写真を撮るため移動して、自身の作品の前で笑顔。ワイシャツとネクタイのセンスも素敵。千田さんは「いつも、おしゃれですよ」と話してくださいました。

「絵が一番、バスケットが2番」という森田さん。「描きたいのは、花のボタンの絵」。好きなことを仕事にできるのは、人として大変幸せなこと。これからどんなすてきな作品が生まれるか、とても楽しみです。(バスケットボール千代田会場、サッカー江東会場に参加)



森田さんの作品「さくら1」



「すき焼き」の絵を制作中



作品展の自分の絵の前で。千田さんと

Questionnaire

ファミリーアンケート

SON東京の活動について お聞きしました

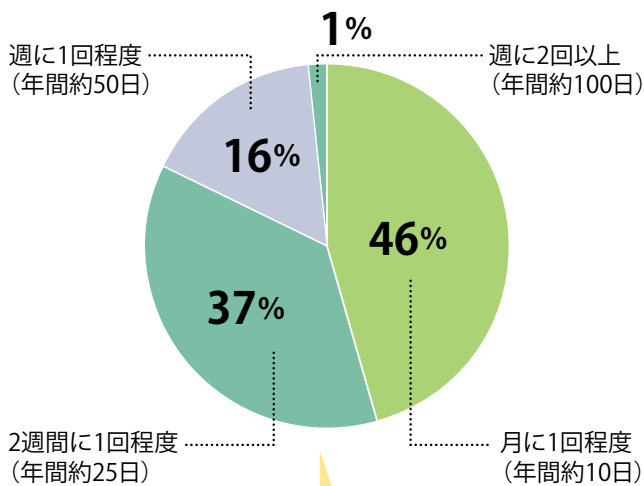
今回のアンケートは、東京学芸大学大学院生・宗塚誠さんの修士論文「スポーツプログラムに参加する知的障がい児・者の親に関する研究—生活満足度・活動満足度・組織コミットメントに着目して—」にご協力いただいたものです。その一部を宗塚さんのコメントとともにご紹介します(宗塚さんは、昨年の夏季地区大会やナショナルゲーム大阪などで、写真撮影で活躍して下さった広報委員会のボランティアです)。

本アンケートは、スポーツプログラム15競技において350部を配布。ファミリー 141名(男性35名、女性106名)から回答をいただき、回答者の平均年齢は50.5歳でした。

[宗塚さんから]自身が最も関心を持っている知的障がい者スポーツの普及のために何ができるかを考えた結果、修士論文として取り組みました。ご協力ありがとうございました。

ここ1年間、アスリートであるお子様の

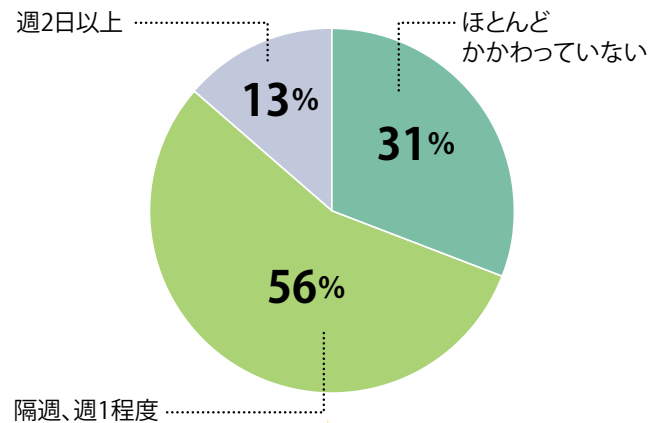
SOプログラムへの参加頻度 はどのくらいですか？



SON東京は15種類のスポーツプログラムだけでなく、文化プログラムも豊富です。選択枠が増えることでアスリートもさまざまな種目に参加しています。3種目に参加しているアスリートは毎週のようにスポーツプログラムに参加していました。

SOの活動にひと月あたり

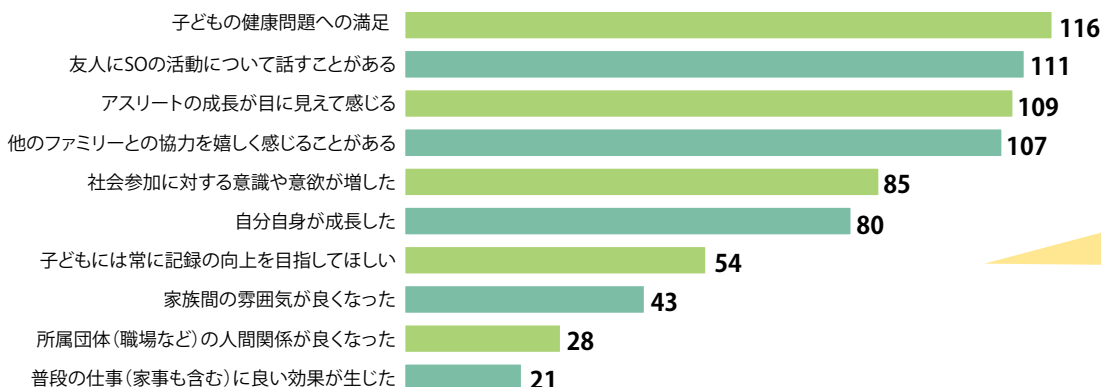
どの程度関わっていますか？



ファミリーの方は、SOへの活動年月が長くなるにつれてプログラムへの参加頻度も高くなる傾向がみられました。参加して1年以内の方は、送迎やほとんどかかわっていない方が多いのですが、参加期間が長くなるにつれて、親自身も他のファミリーとの交流や自分自身がスポーツを楽しむといった積極的な姿勢がみられ、そのような姿勢の親ほど参加頻度が高いことがわかりました。

スペシャルオリンピックスに

参加したことでの効果



この結果は、SOに参加したことでの『変化や満足感を感じているファミリーの割合』を示しています。SOは、アスリートの体力促進や余暇活動の場として大きな役割を担っていることが理解できます。またファミリーとしては、自分自身の変化に満足している方が多くみられました。ファミリーに

とってはコミュニケーションの場として、情報交換の場として重要な機会となっていると思われます。SOへの参加は、子どもだけでなく、親自身にも効果的な場であり、それを強く実感している親ほど参加頻度が高くコーチやプログラムマネージャーといった役割を持つ傾向がみられました。

トライアングル・ストーリー

Vol.19

バドミントンプログラム

スペシャルオリンピックスでの
出会いは宝物



ナショナルゲーム大阪の試合会場

● **アスリート:村岡諒一**
僕がバドミントンを始めたのは高校1年の時からで6年になります。初めはラケットにシャトルがあたらずに難しかったです。練習してだんだんラリーが続くようになって面白いです。ダブルスでゲームをしている時が一番楽しいです。もっと練習してまた大会に出て試合を頑張りたいと思います。

● **ファミリー:村岡レイ子**
諒一は言葉でのコミュニケーションが難しく、初めての場所や人とかがわるのにとっても不安を感じるタイプで、練習ではお手本を見せてもらおうと分かりやすいです。

バドミントンが新しくプログラムに加わった時、予定表に会場が諒一の通っている養護学校の体育館で、コーチが学校の副校長先生ということで驚きました。中村先生との出会いがバドミントンを始めるきっかけになりました。

不器用で道具を使うスポーツが苦手なので、最初はなかなかシャトルがラケットに当たらず空振りばかりしていました。コーチやボランティアの皆さんの優しく丁寧で根気強い指導のおかげで、練習に参加しているうちに自分から前後左右に動いてシャトルを追うようになり、ラリーが続いて面白くなってきたようでした。継続は力なりで、続けていればゆっくりですが必ず出来るようになると思えました。

大阪のナショナルゲームは、中村コーチと2人での参加でした。大きな大会で緊張している諒一がリラックスするように声掛けしていたり、試合中は優しくアドバイスを送って下さるので、安心してプレーしていました。他地区のアスリートを見て、試合の前後に審判や相手コーチへ挨拶をしたり、マナーもしっかりしているのに感心しました。これからは挨拶やマナーも身につけて、プレーを楽しんで欲しいと思います。

ほかにバスケットボール、ボウリング、フロアホッケーにも参加しています。どのプログラムも素晴らしいコーチに指導していただき、大変お世話になっています。たくさんのお会いと多くの貴重な経験、数え切れないほどの感動をもらえるSOに感謝しています。

バドミントン活動報告

● **主任コーチ:中村浩司**

S ON東京から、バドミントンの立ち上げを打診されたのが2002年のことだったと思います。私はその当時、都立府中朝日養護学校(現・府中朝日特別支援学校)に勤務しておりましたので、府中朝日の体育館を借り、バドミントンの練習を始めました。

6年前の私の転勤に伴い、都立矢口特別支援学校に会場を移し、前期・後期合わせて14回〜18回程度を実施してきました。アスリートの参加人数は平均約12名、保護者やボランティアを含めると、20〜25人で楽しく活動しています。技能のレベルに応じた練習には、保護者の方や付き添いのボランティアさんにも参加していただき、ほぼ全員参加型の練習会になっています。

4年前のナショナルゲーム熊本大会と今年度の大阪大会に参加させていただきました。アスリートの村岡さんは連続出場です。他のアスリートさんも、ナショナルゲームや東京の地区大会にもっと参加してほしいと願っています。

ダブルスやシングルスでの試合ができなくても、個人技能コンテストもありますので、すべてのアスリートさんが大会に出場できる資格を持っています。次回の地区大会には多くの参加をお待ちしております。

法人・団体・個人会員募集中

SON東京の活動は、法人・団体および個人の皆様からの会費と寄付金によってまかなわれています。何卒多くの皆様のご支援をお願い申し上げます。

正会員 入会金：5,000円 年会費：5,000円

賛助会員 (一口)年：3,000円〜

郵便振込口座：00140-1-723232

※便利な口座振替をご用意しています。

※法人・団体会員については、事務局までお問い合わせください。

2011年SO夏季世界大会・アテネ応援ツアー

(以下の各社に直接お問い合わせください)

- ◎テクニカルワールド(株) 03-3455-6261 担当/葛西
- ◎国際情報企画サービス(株) 03-6206-8181 担当/関口・原
- ※ 開閉会式チケットは有料での販売です。
- 詳しくは、SON (03-6809-2034) まで。

今後の予定

- ◎5月28日(土)・29日(日) 東京都障害者スポーツ大会(都内各所)
- ◎7月10日(日) 第3回文化プログラム合同発表会(世田谷区立烏山区民会館ホール)
- ◎7月30日(土) SON東京第2回交流会(日本アムウェイ・オーディトリウム)

SON東京オフィシャル
スポンサー



UBS

HSBC



富士ゼロックス東京株式会社



Special Olympics

Nippon
Tokyo